

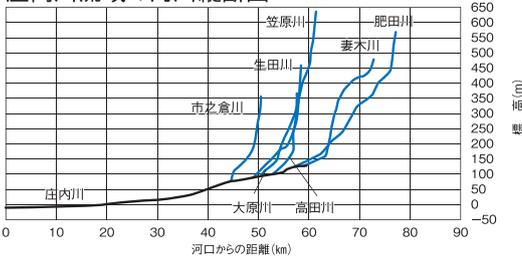
砂防事業のあゆみ

庄内川水系の概要

庄内川(土岐川)は、その源を岐阜県恵那市山岡町の夕立山(標高727m)に発し、幾多の溪流を合せて流下し愛知県に入り、名古屋市市の北西部を貫流し伊勢湾に流入する流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。なお、庄内川は、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。

庄内川(土岐川)直轄砂防流域は、肥田川、妻木川、生田川、笠原川、市之倉川、高田川、大原川の各支川が流れ込む土岐川下流部の2市(多治見市・土岐市)にわたる流域面積149.7km²の流域です。

庄内川流域の河川縦断面図



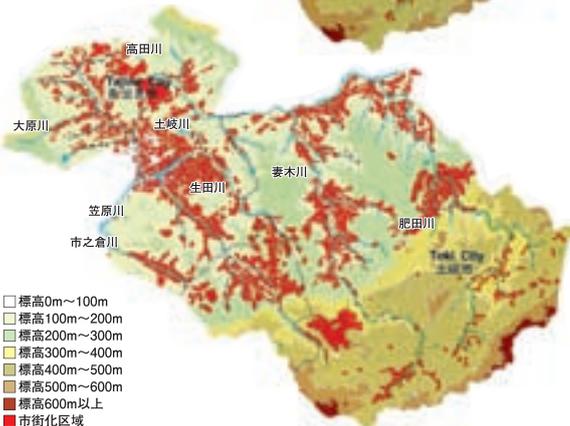
都市化による危険性の増大

人口増加が著しくなった高度成長期からは、山裾近くまで宅地開発による都市化が進み、土砂災害の危険性がより高くなっています。

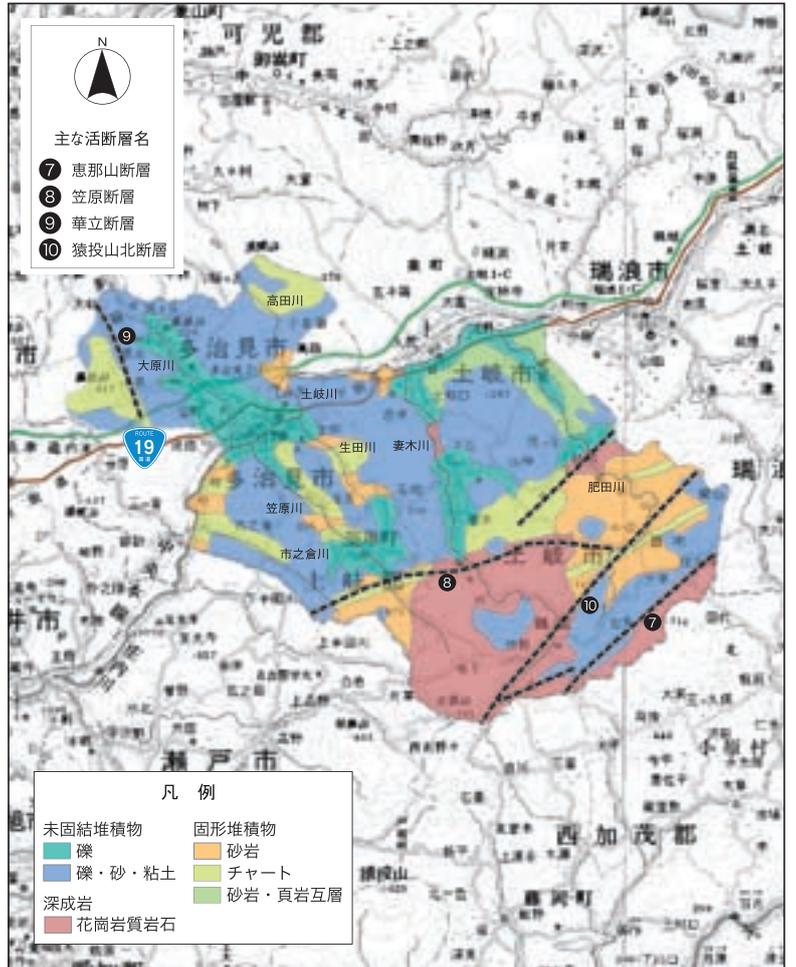
昭和初期の庄内川流域



平成13年ごろの庄内川流域



- 標高0m~100m
- 標高100m~200m
- 標高200m~300m
- 標高300m~400m
- 標高400m~500m
- 標高500m~600m
- 標高600m以上
- 市街化区域



出典:土地分類図(岐阜県) 国土庁土地局国土調査課 昭和50年

窯業の発展に伴う山の荒廃

流域には、陶磁器生産に適する瀬戸層群が堆積しており、尾張藩の奨励もあって、江戸時代中頃から、瀬戸・多治見地方は焼き物が盛んになりました。周辺の丘陵では陶土の採掘や薪を得るための山林伐採が盛んに行われてきました。このため、大雨が降れば、荒れた丘陵から土砂が流れ出して庄内川支川等の河床を上昇させ、氾濫が繰り返し発生しました。

庄内川流域の地形・地質の状況

庄内川流域は未固結の粘土層や風化しやすい花崗岩が分布していることに加え、複数の断層が存在し、土石流や崩壊が発生しやすい地形・地質構造となっています。

このため、地震や降雨により崩壊が生じ、庄内川本川まで多量の土砂が流出する可能性が高い状況にあります。



昭和10年代の土岐郡笠原町(平園川上流)

昭和20年代の多治見市長瀬町(多治見IC北)

昭和20年代後半山腹工施工(昭和27~28年)